

これまでの主な意見（協議会及び意見交換会より）

- ～ 第1回協議会及び意見交換会での主な意見
- ～ 第2回協議会での主な意見

1 母子里にお住まいの方々と関わりの深いもの

<買い物>

- 買い物や通院など、車が運転できるうちは良いが、車が運転できなくなった場合の対応を、今のうちに考えておく必要がある。
- 近所の方に買い物を頼まれれば当然応じるが、実際に頼むほうの立場を考えれば、頼みにくいのが現状。近所つきあいもあり、お金を払えば済むといった単純な問題ではない。
- ガソリン代や手間賃など利用者が一定の負担をするといった仕組みづくりを検討する必要がある。
- 移動販売の場所がコミュニティセンターの場合、雪の多い冬期間では車を持っていない方々が利用するのは困難。移動販売の利用は車を持たない高齢者が中心であり、こうした方々の自宅を巡回してもらえよう販売業者などへ要望していく必要がある。
- 移動販売車が来るようになって便利になったが、週1回の診療所が開設される時間帯に合わせて販売してもらえると、診療所を利用する高齢者などの利便性の向上につながる。

<地域コミュニティ>

- 地域のお祭りや敬老会といった行事の開催は、特に大切にしている。
- 地区の役員など、若い世代へと引き継いでいかなければならないが、現状では難しい。
- 離れて暮らしている家族よりも近所の方との関係が深いように思う。
- 週に1回あるいは月に1回でも、地域みんなが集まれる場を作っていく必要がある。また、こうした取組は、基本的には、外部の方々に支援を求めるのではなく、地域のみんなが中心となって取り組んでいくことが大切である。
- 家庭菜園の野菜をもらう代わりに、買い物を頼まれるなど、お互いに協力し合える部分が少なからずあると思う。こうした助け合いが、地域の中で気兼ねなく頼めるような仕組み（例えば「地域通貨」の導入など）づくりを検討していく必要があるのではないか。

<産業・ビジネス>

- 地域の資源である「山菜」を活用したビジネスなどを検討してみてはどうか。まずは、1人でも2人でも山菜シーズンに雇用を生み、冬期間は別の仕事をしながら、ある程度この地域で生活できるだけの収入が得られるような形になればビジネスになると思う。

<将来に向けて>

- 住民の方々に話を聞き、何が必要とされていて、実際に何が出来るのかを、地域全体で考えていくことが大切である。
- 自然体の流れの中で、住民同士が仲良く、楽しく、静かに暮らしていくためには、どうすれば良いのかということを考えていく必要がある。
- 75歳以上の一人暮らしの高齢者の方々のニーズをしっかりと把握して、こうした方々を支えていくことができれば、ある程度の生活満足度は維持できるのではないか。

2 行政と関わりの深いもの

<買い物>

- 名寄市内の大規模店舗（西條）や市立病院の前までバスが運行しており、買い物や通院にあまり不便を感じていない。
- 幌加内町とヤマト運輸との協定による「買い物サービス」の取組の動きがある。
- 買い物のため運転する人も高齢者の方が多くなってきたので、月に1回でも地区ごとに市街地へ送迎するなど、町で車両を購入し、買い物をする楽しみを提供する手段として、買い物送迎バスのようなものを運行してみてもどうか。（町では、買い物支援に関し、移動販売や宅配事業などを中心に考えており、買い物送迎バスの運行は困難な状況）

<交通（JRバス）>

- JR深名線の代替バスが運行されているが、採算面の問題などもあり、近い将来、廃止される可能性もある。
- 現実的にはJR深名線代替バスの路線（深川～名寄）よりも、むしろ旭川との間の路線が望まれるところ。
- バスの出発時間や経路など、利用者のニーズに沿った運行体制について、JRバスに対して要望していくことが必要ではないか。（JRバスへの要望を実現するためには、各地域において実際にJRバスを利用している高齢者の方々からの声が必要）
- 現在、65歳以上の高齢者を対象としたバスの回数券があるが、役場周辺の地区だけでなく、母子里地区など北部の地域でも気軽に使えるような仕組みにしてほしい。

<地域おこし協力隊>

- 地域の中に、若い人や時間的余裕のある人が少ないことから、国の制度である「地域おこし協力隊」を活用して、地域の活性化に向け一緒に活動することも良い方法だと思う。
- 「地域おこし協力隊」は、地域での雇用の場の問題などから、地域への定住につながるケースが相当数いるので、安易に活用するには問題が多いのではないか。
- 地域おこし協力隊を受け入れるのであれば、具体的に何をしてもらおうのか、地域のみんなですっかりと考えていく必要がある。

<その他>

- 道や大学などは、あくまでも側面的なサポート役として地域に関わっていくべき。
- 急病人が発生した場合の搬送先など、救急医療体制に関する検討が必要である。
- 基礎集落圏ごとに組織化し、町道の除排雪をそれぞれの組織に委託している。
- 地域で生活していくためには、近所同士の付き合いが非常に大切。近所同士で助け合える力が残っているうちは、こうしたコミュニティの力を削がないように、また、最大限発揮してもらうように、行政などにより側面的にサポートしていくことが必要。

3 NPO 法人、団体・企業、大学、試験研究機関などに関わりの深いもの

- 「よるべさ」は、介護サービスを中心に積極的に活動されているが、母子里での活動をもっと増やしてほしい。（「よるべさ」では、スタッフの人数に限りがあり、大がかりな取組は難しい状況。）
- 北大演習林に勤務している職員は、ほとんどが名寄から通勤している。
- 名寄にある北管理部の拠点を母子里に移すといった大きな課題も検討すべき。
- 北大の研究施設の誘致などの大きな課題よりも、高齢者支援などの現実的な課題への対応を検討すべき。